

## 復活 6人の迷える男女たち

作 : 岡崎道成

演出 : 小川政弘

### 登場人物

陪審員1番 男。会社員、課長。良識派、責任感あり。

2番 男。大工。下町育ちの典型的江戸っ子タイプ。

3番 女。秘書。真面目で神経質。

4番 女。フリーター。ミーハーな現代っ子。

5番 女。教師。誠実、正義感あり。

6番 男。定年退職しボランティア生活。話のわかる人。

### < 前編 >

#### とある会議室

- 1 「では、そろそろ始めたいと思いますので、席についてください。全員そろってますか。1, 2, 3, 4, 5, わたしで6。はい、6人いますね。えー、わたしたちは今回、陪審員として、市民の義務を果たすために呼び出されたわけですし、何ですか、呼び出し状1番の者が議長をするのが慣例のようですが、わたしがその1番ですので、よろしいでしょうか。もしほかに立候補する方がいれば…」
- 2 「(さえぎって) わかったわかった。あんたでいいから、さっさと始めようぜ。」
- 3 「そうよね、皆さん、それぞれ忙しい中來てるわけだし。」
- 4 「あたし、今晚デートがあるから、早く終わりたいなあ。」
- 1 「そうですか。では失礼して、議長をさせていただきます。えー、今回わた

したちが話し合う事件は、(黒板にカッカッカと書く)、『イエス・キリスト復活事件』です。」

タイトル 岡崎道成作 ドラマ「復活-6人の迷える男女たち-」(その前編)

1 「始める前に一つだけ確認しておきますが、この話し合いは、全員一致で結論を出すことになってます。いくら話し合っても全員一致にならないときは、残念ながらお流れとなります。よろしいですね。」

2 「そのときはそのときだよ。」

5 「でもせっかく集まったんですから、全員一致になるように努力しましょうよ。」

6 「まあまあ、とにかく、始めない事には進みませんから。」

1 「では一応、事件をざっと振りかえてみたいと思うんですが、どなたか簡単にまとめて下さる方、いませんか。」

3 「わたし、メモしてあります。」

2 「おっ、ねえさん、やるねえ。」

3 「一応、秘書をしていますので。」

1 「では3番さん、お願いします。」

2 「しかし何だね、人を番号で呼ぶってのは、どうもしっくりこないね。」

1 「呼び出し状に説明があった通り、ここではお互い見知らぬ者同士、余計な先入観を持たないように、名前ではなく番号で呼ぶことになってますんで、よろしくお願いします。では3番さん、どうぞ。」

3 「はい。訴えによると、イエス・キリストは、自分を神の子だと主張して人々を惑わしたという罪で、十字架に付けられ、墓に葬られました。しかし、3日目に復活したという噂が広まり、それを信じるクリスチャンと呼ばれる人々が現れました。原告は、この噂を嘘だと訴えていますが、被告のクリ

スチャン側は本当だと主張しています。以上です。」

1 「ありがとうございました。えー、そういうことなのですが。」

2 「採決。こんな話、結論はわかりきってる。早く採決して終わりにし  
ぜ。」

1 「採決という意見が出ました。まだ何も話し合ってませんが、どうしま  
すか。」

3 「わたしはいいですよ。」

4 「わたしも。」

1 「3番さんと4番さんは賛成ですね。5番さんと6番さんはどうですか。」

5 「皆さんがそうおっしゃるなら。」

6 「わたしも、構いません。」

1 「では、採決しましょう。えー、無記名投票をお願いします。イエス・キリス  
トが復活したのは本当、嘘、どちらかを書いてください。…はい、いいです  
か。集めますよ。…じゃあ開票します。…嘘。嘘。嘘。嘘。嘘。…本当。」

4 「ちょっと、本気？」

2 「誰だよ。誰が本当なんて書いた？」

3 「無記名投票ですから、言う必要はありません。」

2 「何だ、あんたかよ。」

3 「わたしじゃありません。」

5 「…わたしです。」

2 「あのねえ、5番さんよ、死んだ人が生き返るかって。」

5 「…わかりません。でも、今でもたくさんの人たちが、復活を信じているん  
です。死んだ人が生き返ったなんて、わたしだって信じられませんが、  
『火のないところには煙は立たない』って言うでしょう。絶対嘘っていう確信  
が持たなくて…」

2 「あーあ、やってらんないよ。」

5 「わたしも、納得できれば意見を変えますから。」

1 「まあまあ、意見が分かれたんですから、決まりです。話し合いを続けましよう。どなたか、5番さんが納得するような説明がありますか。」

皆 「う～ん」「そうねえ」などしばらく考える

4 「(はっと思いついて)・・・ねえ、ほんとは死んでなかったっていうのは？」

5 「え？」

1 「4番さん、どういうことですか。」

4 「だから、死んだと思ったのは、実はそうじゃなかったのよ。」

3 「でも聖書には、ローマの兵士が、死んだのを確かめたって書いてありますよ<sup>(1)</sup>。わたし、気になるところはメモしてありますから。」

4 「間違いってことだってあるじゃない。てっきり死んだと思ってたら、3日たってもぐっと起きあがったのよ。それで弟子たちの前に現れたら、大騒ぎになったってわけよ。」

2 「そうだそうだ。あんた、見直したよ。イエスは最初から死んでなかった。弟子たちは、復活したって勘違いしたんだ。つまり、復活は嘘。決まりだな。」

6 「・・・あの、ちょっと。」

1 「6番さん、何か。」

6 「その、石があったから、それは無理じゃないかな。」

5 「どういうことですか。」

6 「確か、イエスの墓は穴倉になっていて、入り口は重い石でふたがされていたはずだ<sup>(2)</sup>。」

1 「3番さん、メモしてあります？」

3 「ええ、その通りですね。それと、外にローマの番兵たちが見張りをしていました<sup>(2)</sup>。」

4 「それがどうしたのよ。」

6 「3日間飲まず食わずの体で、一人で動かせるような石じゃないだろう。仮に石を動かせたとしても、外にいたローマの番兵にすぐに捕まったはずだ。」

5 「お墓が空だったというのは、確かなんですよね。」

1 「3番さん。」

3 「ええ。墓は確かに空でした<sup>(3)</sup>。」

1 「そうなると、どうやってイエスは外に出たんでしょうね。」

2 「ちょっと待て！」

1 「2番さん。」

2 「何だ、その番兵ってのは。何でイエスの墓の番なんかしてるんだ。」

3 「弟子たちが、死体を盗みに来る恐れがあったからです<sup>(5)</sup>。イエスが復活するというのは、生前から予告されていたから<sup>(6)</sup>。」

2 「だったら話は簡単じゃねえか。弟子たちが死体を盗み出して、復活したって言いふらしたんだよ。」

3 「ええと、…そうですね。確かに番兵たちもそう証言しています<sup>(7)</sup>。」

2 「ほらみる。決まりだよ、決まり。」

5 「じゃあ、弟子たちは嘘をついていると？」

2 「そうだよ。いや、気持ちはわかるよ。自分たちの大事なお師匠さんが、十字架なんかにつけられてみじめに殺されたんだ。何とか名誉挽回してあげたい、そう思ったんだよ。忠義な話じゃねえか。でも、嘘はいけねえよ、嘘は。」

3 「あ、ちょっと待ってください。番兵の証言には、買収の疑いがありますね。」

2 「買収？」

3 「ええ。番兵が祭司長からお金を受け取って、嘘の証言をしたと聖書に書いてあります<sup>(8)</sup>。」

4 「ねー、さいしちょうって何？」  
3 「イエスを十字架に付けるよう告発した、ユダヤ人の宗教的な指導者よ。」  
1 「どうして、祭司長がそんなことを。」  
5 「(サスペンスの謎解き風)もし復活が本当だったら・祭司長たちは、立場が危ないですよ。神に仕えているはずの自分たちが、本物の神の子イエスを十字架に付けたことになりますから。だから、どうしても復活したとは認められなかった。弟子たちが盗んで行ったことにしたかった。」  
3 「あり得ますね。」  
2 「異議あり！ 単なる推測だ。何の証拠もないだろ。」  
5 「わたしは、可能性のことを言ってるんです。」  
4 「えー、ちょっと、なに。よくわかんない。」  
3 「議長、この辺で休憩にしませんか。頭冷やしたほうが。」  
1 「そうですね。では、10分間休憩にします。トイレは右の奥、そっちの控え室には飲み物とかありますんで、ご自由にどうぞ。」

#### 控え室

4 「(オフマイク)あー、ケーキがある！(オン)かわいいー！」  
3 「あら、ほんと。おいしそうなプチケーキがたくさん。」  
1 「クリスマスですからね。サービスなんでしょう。」  
4 「はい、議長さんもどうぞ。」  
1 「あ、どうも。」  
4 「ん～、おいしー！」  
5 「そういえばクリスマスって、イエス・キリストが生まれたお祝いですよ。ね。」  
3 「そうよ。」

- 5 「それがこれだけ世界中に広まってるとことは、よっぽど立派な人物だったんでしょね。」
- 3 「偉大な宗教家ですもの。イエスはね、真実の愛を説いたの。彼自身はユダヤ地方でしか活動しなかったけど、弟子たちが熱心にその教えを広めたのね。その結果、キリスト教が世界的な宗教になっていったのよ。」
- 5 「詳しいんですね。」
- 3 「これでもミッションスクール出身。毎朝、礼拝があつてね。」
- 5 「そうなんですか。」
- 3 「でも、イエスが復活したかどうかを問題にするなんて、馬鹿げてるわ。何でそんなことにこだわるのか、わたしは理解できないな。」
- 5 「わたしは、よくわかりませんが…」
- 1 「(オフ)では皆さん、そろそろ集まってもらえますか。」

## 会議室

- 1 「それでは、話し合いを続けましょう。えーと、どこから行きますか。」
- 5 「議長、採決をお願いします。」
- 1 「採決ですか。」
- 5 「ええ。今までいくつか疑問点も出ましたし、皆さんの考えが変わったかも知れません。」
- 2 「変わんなかったら、あんたどうする？『本当』があんた一人だったら？」
- 5 「…わたしも、『復活が嘘』のほうに変えます。」
- 2 「ようし、その言葉、忘れんなよ。議長、採決だ。」
- 1 「わかりました。それでは、さっきと同じ要領で投票してください。…いいですか。じゃ、開票します。」

< 後編 >

- 1 「いいですか。じゃ、開票します。嘘、嘘、嘘、嘘、本当、本当。えー、『嘘』が4票、『本当』が2票です。前回より『本当』が1票増えました。」
- 2 「1人寝返った！」
- 3 「2番さん、寝返ったという言い方は不適切です。判断を変えたと言ってください。」
- 2 「おい3番さん、またあんたかよ。」
- 3 「わたしじゃありません。」
- 6 「…わたしです。」
- 2 「じいさん！」
- 1 「えー、最初にも言いました通り、この話し合いは6人全員が一致しないと結論を出せません。2回目の採決でも票が分かれたので、イエス・キリストが復活したのは本当かどうか、話し合いを続けることにします。よろしいですね。」

タイトル 岡崎道成作 ドラマ「復活-6人の迷える男女たち-」(その後編)

- 5 「あの…皆さん、どうしてイエス・キリストの復活が嘘だって思うのか、理由を聞かせてもらえませんか。」
- 1 「理由ですか。そうですね。2番さん、どうですか。」
- 2 「何で俺が最初なんだよ。議長、あんた1番なんだから、先に言えよ。」
- 1 「…わたしは、えーと、そうですね、復活が本当だという証拠が何もありません。」
- 5 「でも、お墓は実際空だったんですよ。証拠になりませんか。」
- 1 「いやあ、それだけじゃ、ちょっと弱いような気がして。…じゃ2番さん、次



どうぞ。」

2 「あっ、何だよ、きったねえ。」

5 「2番さんは、どうなんですか。」

2 「あのねえ、死んだ人が生き返るかってえの。最初っからわかりきってるんだよ、そんなの。復活なんて、あり、えま、せん。」

5 「そんな風に最初から決めつけてたら、話し合いをする意味がないじゃないですか。」

2 「だから、そうだって。こんな話し合い、意味ないんだよ。」

5 「ほかの方はどうなんですか。4番さんは。」

4 「わたし？ ……わたしも、本当のわけないなあって。」

5 「だから、どうして。」

4 「どうしてって、だから、えーっと、…変だから。そう、変じゃない？ どうしてこの人ばかりそう都合よく生き返るの？ そんなの変よ。だったら、わたしだって、あなただって、死んだ後生き返る？ 人間って、死んだら終わりに決まってるんじゃないの？」

2 「そうだよ。その通りだよ。俺もそう言いたかったんだよ。」

5 「おっしゃることもわかりますけど、常識で判断できないことが起こったかも知れないんですよ。復活が本当じゃないと説明できないこととか、逆に嘘じゃないと説明できないこととか、そういうのを考えませんか。決めつけじゃなくて。」

1 「つまり、死んだら終わりという常識はひとまず横に置いて、今回の状況での根拠を考えよう、というわけですね。」

5 「そうです。」

3 「あの、復活が嘘でなければ説明できないことがあるんですが。」

1 「3番さん。」

3 「問題の3日目の朝のことを、聖書で調べてみたんです。」

- 5 「イエス・キリストが復活したと言われる朝のことですね。」
- 3 「ええ。この出来事は、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの4つの福音書全部に出できます。つまり、福音書を書いた4人の弟子たちは、全員、同じ出来事を書いていることになります。これらによれば、その朝、女性たちがイエスの死体に油を塗るために墓に向かったが、行ってみると墓は空になっていた。そこに天使が現れて、イエスが復活したと告げた。弟子たちも墓にやってきて、墓が空なのを確かめた。その後イエスは、彼らの前に何度も姿を現して、自分が確かに復活したことを示した。だいたいこんな話になっています。…ところが…。」
- 2, 4 「ところが？」
- 3 「4つの福音書の内容は、食い違っている部分があるんです。例えば、墓に行った人数とか、復活したイエスが現れた順番とか。」
- 2 「ほおー。」
- 4 「え、どういうこと？」
- 2 「…さあ。」
- 3 「もし復活が本当なら、4つの福音書の内容は一致しているはずですよ。同じ出来事を書いているんですから。内容が一致していないということは、明らかに、復活が本当ではなかったことを示していると思います。」
- 2, 4 「おおー！（拍手喝さい）」
- 5 「ちょっと待ってください。」
- 1 「5番さん、反論ですか？」
- 5 「ええ。福音書を書いた4人は、その出来事を一緒に見ていたんでしょうか。」
- 3 「それは…違いますね。その場にいなかった人もいますし。」
- 5 「だったら、違っていてもおかしくないんじゃないですか。」
- 2 「何でだよ。」

- 5 「だって、自分が見たり聞いたりしたことしか書けないじゃないですか。お墓に行った人数だって、入れ違いになったとか、いろいろ可能性があると思うんです。それに、普通の状況じゃないですよ、復活なんて。もしこれが弟子たちの作り話だとしたら、それこそ一致していきなかつたおかしいですよ。だから、一致してないってことは、逆に作り話じゃないってことになりませんか。」
- 1 「うーん、一理ありますね。3番さん、どうですか。」
- 3 「…気がつきませんでした。…議長、わたし『本当』のほうに変えます。」
- 2 「おい、おいおいおい、どういうことだよ。そんなに簡単に自分の意見変えるなよ。」
- 3 「でも、5番さんのほうが説得力ありますから。」
- 1 「わたしも、今の5番さんの意見、もっともだと思います。わたしも変えます。」
- 2 「何なんだよ、みんなして。おい4番のねえちゃん、あんたはどうなんだ。」
- 4 「えー、わたし、難しくって、よくわかんない。みんながそう言うんなら、『本当』のほうに変える。ごめんネ。」
- 1 「ということは、『嘘』が1票、『本当』が5票ということになりましたね。」
- 2 「俺は変えねえぞ。誰が何と言おうと、復活なんて『嘘』だ。絶対『嘘』！いいよ、話し合い、お流れにしてもらおうじゃないの。俺はな、これでも大工してんだよ。中学卒業して弟子入りして、今まで建てた家は20やそこらはあるんだ。手抜きなんか1軒もやっちゃいねえ。そりゃ、カンナ荒くたって、柱一本抜いたって、誰にもわからねえよ。だけどそんなことして、「この家、俺が建てました」なんて言えるか？俺はな、この仕事に命かけてんのだよ。俺が建てた家が地震で崩れたら、俺は腹切るね。そのくらいの気持ちで大工やってんのだよ。いい加減なことなんて、できねえ性分なんだよ。あんたらみたいにお上品ぶって理屈こねまわして、死んだ人間が生き返

るなんて、俺は絶対言わねえからな！」

1 「…どうしましょう。このまま2番さんが意見を変えないと、お流れということになります。」

6 「あの…」

1 「6番さん、何か。」

6 「…ずっと、引っかかってたんだ。何で、キリスト教がこんなに世界中に広まったのか。」

2 「何を言い出すかと思えば。」

5 「弟子たちが、一生懸命イエスの教えを広めたからじゃないですか。『真実の愛の教え』でしたっけ、3番さん。」

3 「ええ。」

6 「いや、さっき休憩時間に、聖書を読み返してみたんだ。師匠を十字架で殺されたのに、弟子たちは実に熱心に教えを広めている。なぜだ？」

1 「ですから、その愛の教えが立派だったから、じゃないんですか。」

6 「…ところが、弟子たちが伝えているのは、そういうことじゃない。」

5 「えっ？」

3 「どういうことですか。」

6 「弟子たちが伝えているのは、『イエスが復活した』という知らせだ。繰り返し、繰り返し、『イエスが復活した、自分たちはその証人だ』、そう伝えているんだ<sup>(9)</sup>。十字架のときには、自分が捕まるのを恐れてイエスなど知らないと否定した弟子が、復活の後には変わってしまった。牢屋に入れられても、むち打たれても、イエスの復活を伝えることをやめなかった<sup>(10)</sup>。」

5 「どうして…」

6 「本当に見たからだ。」

3 「復活したイエスをですか。」

6 「そうだ。弟子たちは、信じられない出来事を目の当たりにした。イエスが

復活した。自分たちの従ってきた師匠は、本当に神の子だった。もう何も怖くない。事実が、彼らを強くしたんだ。」

5 「そうすると、キリスト教が広まったのは、復活を伝えたからだということですか。」

6 「そうだ。弟子たちが伝えたのは、イエスの語った教えじゃない。イエスその人だった。イエスが復活した神の子、本当の救い主だということだったんだ<sup>(1)</sup>。復活が嘘なら、そんなことを広める理由はない。」

2 「違うね。弟子たちは、自分たちの宗教を守りたかったんだ。復活したって言えば、信者が増えると思ったんだ。」

6 「そうじゃない。復活を伝えるのをやめずに殺された弟子もいる。2番さん、あんた、自分の建てた家に命をかけると言ったな。それで合点が行った。もし柱一本抜いた家だったら、あんた、命かけられるか。心の中にやましいことがあったら、できるはずがない。作り話のために、命なんかかけられるはずがない。イエスの弟子たちは、殺されても復活を伝えるのをやめなかった<sup>(2)</sup>。あんた、どうしてだと思う？」

2 「それは…」

皆 「…」

5 「…議長、採決をお願いします。」

1 「採決の提案が出ました。異議ありませんか。…では、採決をします。復活が本当か、嘘か、どちらか書いてください。…いいですか。6人全員一致なら決着です。では開票します。…本当。本当。本当。本当。本当。…」

< 完 >

#### 脚注

(1) ヨハネ19:33

(2) マタイ27:66

- (3) マタイ28:6
- (4) マルコ16:4
- (5) マタイ27:64
- (6) マタイ27:63
- (7) マタイ28:15
- (8) マタイ28:12 ~ 15
- (9) 使徒2:32
- (10)使徒5:40 ~ 41
- (11)使徒5:42
- (12)使徒7:58

参考

シドニー・ルメット監督「十二人の怒れる男」  
三谷幸喜作 中原俊監督「十二人の優しい日本人」